

お客様各位

NO90 2枚 平成19年11月30日

あとから気がつく「深慮遠謀」

2007.11月号

せたくす・de・元気



戦闘機がマッハに入った瞬間、周りの空気が蒸気になります。

税理士法人 SETACS 林卓也

TEL 03-3252-4558 FAX 03-3252-4508

メール takuto@wave.plala.or.jp

ホームページ <http://www.diichikeiei-t21>

1. 日本人にとっての神様

無信教である日本人にとっての神様は「父母」もしくは「先祖」ではないかと以前書いたことがあります。なぜならば、「何かを成功させたい」、「恐ろしいものから守って欲しい」といった時は、99%（たぶん）の日本人が、仏壇に手を合わせ線香を上げ「ご先祖様、私をお守りください」と唱えたり、「お母さん、私に味方して」と祈ったりするからです。

その他にも日本人が神のように信じ、心のよりどころにしているものがあることがここ最近の研究（誰がしたのかな？）で明らかになりました。以前は、それが「お金」だと考えられていましたが、それではあまりにも味気ないので、その研究では日本人が信じるものは「数字」であるとしています。

日本では、毎日、誰もが、何んらかの「数字」の情報について一喜一憂しています。

会社の売上が上がった（今月の給料を支払える、借入金も返せる）、今月の売上のノルマを達成した（美味しいお酒が飲める）、数学の点数で不合格点を取った（家に帰るのが嫌だ、そうだテストは捨ててしまおう）、思ったよりも税金が少なくて助かった（SETACSのおかげだ）、会社の格付けが上がった（だからどうした）、r-GTPが上がった（酒の飲みすぎだ）、貯金が減った（だんなに仕事がないからだ）等々です。

そうなんです、生活・仕事・行動・判断、すべての基準になるものは「数字」なのです。あらゆるものを「数字」に置き換えて、「よかった」「悪かった」と思いながら暮らしているのです。

そんなに「数字」に縛られて「幸せか」と尋ねられても、判断基準は「数字」以外考えられません。「恋愛は数字に置き換えられないわ」「私たち二人の愛は永遠よ」と言う方もいらっしゃるでしょう。でも、そんなのは最初の数ヶ月の甘い出来事で、いざ結婚をするとすると、「貴方の給料じゃエステも行けない、会社から帰ったらアルバイトできないかしら」などと変わって行きます（断定かよ？）

また、結婚式費用も結納金も結婚指輪も、二人の家庭事情と給料などを基準に金額が決められ、離婚する時はお互いの取り分でもめることになります（これはほぼ断定）。

「数字」「数字」「数字」が自分の周りを飛び回る現実を受け止めて生きていくことが、現代社会に住む我々には必要で不可避なことだということが研究の成果なのです。

2. 本の街、神保町の話

神保町を考えるトークショーでは、三省堂の社長（70歳くらいか）が一般参加の人から「三省堂の名前の由来を教えてください」との質問に老練かつユーモアを持って答えていました。とても面白かったのでご紹介します。細かい描写は覚えていないのですが概略は次のようなことでした。

創業者である祖父が孔子の論語の中の一節である「われ日にわが身を三省す」の言葉から命名したのですが、祖父が論語をすべて読んで、その中の優れた言葉を選んだとはどうも言い難い、なぜならば、自分も興味を持って論語のどの辺からとったのかを調べてみようと思ってみると、10巻20篇もある論語の中の一巻目しかも一番最初のほうのページにその言葉があるのです。

どうやら論語から社名を考えるというアイデアはあったのですが、最初のところをちょこちょこ読んで選んでしまったようなのです。だから、えばって言えるような社名ではないのですよ。

神保町の冠たる三省堂書店社長の見事な自虐的なお答えでありました。

3. 走りながら考えること

来年2月17日の東京国際マラソンのために11月はトータル110km走りました。長いのだが短いのだがマラソン初心者にはよくわからないのですが、本人は十分にあえいでおります。

走っていて音楽を聴くのも飽きてきたので、最近は司馬遼太郎さんの歴史を語る講演シリーズを聴いています。その中で、司馬さんは「文化と文明の違いの顕著たるものは、文化は不合理であり、文明は合理的なものなのです」と語っています。「文化とは、例えば箸の上げ下ろしの作法であり、ふすまの開け閉めの作法であり、ふすまなんてえのは足で開ければ一番早いのに一々座って開けています。また、文明とは、例えば飛行機であり、利用したい人はチケットの購入と離着陸時のシートベルト着用くらいの約束事を守るくらいで便利に利用できるのです」と教えてくれます。

なるほどな、走りながら膝が崩れ落ちそうになるのを堪えながら感心します。「では、いま自分が走っているということは、文化的なのか文明が栄えた結果なのか」と考えます。つらくて痛いのに走るのには不合理だけど、おかげで健康になりダイエットにもつながることは合理的かな。

司馬史観と文化と文明の渦巻くロードを素人ランナーは悶々と走り続けるのです。

5. プレスリーとスイート

エルヴィス・プレスリーが甘いもの好きで過食症になり、それが原因で死んでしまったとまことしやかに言われていますが、真実は定かではありません。

ただ、プレスリーの愛したサンドウィッチ「エルヴィス」のレシピを見ると、確かにこれはヤバイ食べ物だ、身体の中からすべてを蝕んでいく代物であるなということはわかります。

まずは、バナナとピーナッツバターを混ぜて伸ばしてペースト状にします。

それに、カリカリベーコンを大量に混ぜて、パンにはさみます。

最後に、そのパンをベーコンの油で揚げるのです。

せっかくカリカリにして油を抜いたベーコンなのに、そのベーコンから出た油をペーパーでふき取ることも、新聞紙に吸わせることもなく、パンを揚げてしまうのです。パンはきっとすべての油を吸い上げ吸収し、フライパンの上はピカピカに磨かれることでしょう。

「エルヴィス」を食べたあなたの血管は、体内にあふれ出すベーコンの脂により、血流がその速度を緩め、ピーナッツバターがその緩やかになった流れに止めの一撃を下すことでしょう。

メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型肥満に高血糖・高血圧・高脂血症の2つ以上を合併した状態をいいます。プレスリーは今で言うメタボだったことには間違いないでしょう。

うそかと思った方はぜひレシピ通り作って食べて見てください。どうなっても知りませんが。